「豪華寮」に化けていた――「サラリーマンの健康保険料」で「1000億円丸儲け」「天下り」法人を発見！

審査書類を右から左へ流すだけで巨額手数料。職員宿舎は横浜一等地の高台に――なぜこれで来年度2万5000円負担増なのか――

潤沢な資金で不動産資産を購入している（左上から時計回りに職員寮、研修センター、本部、厚労省の水田邦雄・事務次官）

新型インフルエンザの大流行で病院には患者があふれている。給料が上がらない冬の時代にサラリーマンにとっては医療費が嵩（かさ）み、相次ぐ健康保険料値上げはダブルパンチだが、ちょっと待て。国民の医療費増大の裏に、保険料を吸い尽くそうとするヒルのような「天下り法人」がはりついていたのだ。

＊

医療費が増大すれば、保険料アップとなって国民に跳ね返る。

中小企業の社員と家族など全国3500万人が加入する全国健康保険協会（協会けんぽ）は、今年度の赤字が4600億円にのぼるとし、来年4月からの保険料率を現在の全国平均8・2％から9・5％に引き上げる必要があるとの試算を先月発表した。

社会保険労務士の田中章二氏がいう。

「これは、月給32万円の平均的サラリーマンの場合、

マネーポストホームページ オリジナルコンテンツも充実 http://www.moneypost.jp 小学館

給料から天引きされる健康保険料が全国平均で月額2080円値上げされ、年間約2万5000円の負担増になることを意味します」

大企業のサラリーマンとその家族が加入する組合健保も同様だ。健康保険組合連合会がまとめた全国1497組合の08年度決算によれば、経常収支は合計3060億円の赤字。後期高齢者医療制度による負担増で昨年から保険料値上げが続いており、鳩山政権はその悪評高い後期高齢者医療制度の廃止を先送りした。これで値上げラッシュは止まりそうにない。

しかし、国民が値上げに苦しむ陰で、サラリーマンが支払う健康保険料を食い潰す〝第2の社会保険庁〟ともいうべき巨大な天下り団体がある。

「社会保険診療報酬支払基金」――という。

理事長の中村秀一・前厚労省社会・援護局長をはじめ、常勤理事・監事4人が厚労省キャリアOBで、職員を合わせると天下りは12人。47都道府県に支部を置き、職員数はなんと5184人。歴代理事長には、現役官僚時代に年金の手書き台帳を破棄するように指示を出して「消えた年金」の原因を作った正木馨・元社会保険庁長官もいる。

同基金はもともと社保庁傘下の特殊法人だったが、年金の無駄遣いに批判が吹き荒れた年金国会の前年（03年）に民間法人化されたことから、ほとんど無傷のまま天下り先として温存された。民間法人といっても、サラリーマンが支払う健康保険料で運営され、とてつもない資産を溜め込んでいるのである。

社保庁OBが語る。

「基金には健康保険料から毎年800億円を超える収入があり、毎年100億円以上の補助金も注ぎ込まれてきた。全国の一等地にビルを建て、莫大な積立金を持つ。年金問題で社保庁は解体が決まり、職員も批判にさらされているのに、基金だけがぬくぬくと肥え太っている状況だ」

丸儲けの仕組みを上掲の図にまとめた。

国民が病院で診察料を支払う際、窓口では医療事務の担当者がカルテを見て医療費を計算する。被保険者が窓口で支払うのは医療費の3割だが、残る7割はサラリーマンが加入する健保組合などから基金を通じて病院に支払われる。

基金の主な役割は医療機関や薬局による「不正請求」のチェックだ。医療機関から送られる年間8億3000万件の診療報酬明細書（レセプト）を医師と歯科医師約4500人の審査委員や事務方の職員が点検する。検査費用としてレセプト1件約114円（書類請求分）の事務費を健康保険料から徴収し、収入は年間809億円（08年度）に達する。

ところが、基金の実情を知る審査委員を務めた経験のある医師はこういう。

「パラパラめくるだけの人も」

毎年のように医師による不正請求が摘発されているが、社会保険診療報酬支払基金は長期間に渡って不正を発見できないケースが多い。

「発見できなくても不思議ではない」

そう語るのは別の審査委員経験者の医師だ。

同基金では全国23万の医療機関から送られる明細書8億3000万件をまず、各支部の審査委員とは別にいる審査業務課職員（事務方）が事前にチェックし、審査会にかける。5184人の職員全員で取り組んだとしても、1人1時間80件のペースでチェックしなければこなせない枚数だ。

休憩する間もなく点検をしているのかといえば、そうではない。

「なぜ大量のレセプトを短期間でチェックできるかというと、私のいたところでは、レセプトは過去に請求ミスや不正があった医療機関かどうかでA～Cの3種類に分類される。〝過去に問題なし〟とされたCランクの医療機関のレセプトは3か月に1回くらいしか見ない。残ったAとBランクのレセプトから問題点があれば付箋をつけて事務方が審査委員に提出する。現役

「レセプトの審査といっても、実態は99%以上が医療機関の請求通りに支払われている。審査委員は事実上、医師会と歯科医師会が選ぶから仲間同士で厳しい審査はできませんよ」

〝ザル審査〟の実態を追った。

■「保険料ピンハネ」の構図

加入者へのシワ寄せが起きようとしている（病院の待合室）

の医師と歯科医師である審査委員のほとんどは非常勤で、勤務は平均すると1か月に5日ほど。委員の中には職員が付箋をつけたものだけパラパラ見て承認するだけの人も少なくなかった」（同前）

5184人の職員と4500人の審査委員が右から左に書類にハンコを突いているのが実情ではないか。しかもレセプトを「パラパラとめくった」だけであっても、1通ごとに手数料が発生するというのだ。

基金の08年度の決算書によると、事務方の職員の給与・賞与の総額は357億円、平均年収700万円という高給取りぞろいだ。元厚労省局長の中村理事長の年収は約1800万円に上る。非常勤の審査委員にも平均すると年間200万円ほどの報酬が出ている計算で、前出の医師は「私は1日6時間、月3日勤務で15万円ほどもらっていました」と証言する。

基金の決算書にはさらに保険料で溜め込んだ「埋蔵金」が見つかった。

企業会計に詳しい落合孝裕・税理士が指摘する。

「財務諸表を見ると、基金には当期純利益が49億円もある。民間法人とはいえ、不正請求を見つけて医療費の無駄遣いを防ぐという公的な業務ですから、これほどの利益を上げているのは手数料の水準が高いといえます。それに普通預金と定期預金が合わせて505億円。さらに退職給付引当金の積み立てが1180億円もありますが、新入社員を含めて社員1人あたり2300万円の退職金をいますぐキャッシュで払える金額です」

新入社員の退職金が2300万円？　こんなに積み立てて、定年退職時にいったいいくらもらえるのだろうか。

不動産は「いずれも必要」!?

不動産資産も多い。基金は支部を置く県庁所在地の一等地に自社ビルや社宅を持ち、千葉県にも9階建ての研修施設を保有する。

横浜市青葉区にある職員宿舎を訪ねた。東京・渋谷から電車で30分、駅から徒歩10分ほどの一等地高台にある重厚なタイル貼りの6階建てマンションだ。10年前に基金がキャッシュで購入した〝豪華寮〟である。近所の住民は、「地下駐車場も完備されている高級マンションですよ」と羨ましがる。

基金が保有する不動産は簿価で926億円相当（08年度決算）のもの。手数料ビジネスで丸儲けしたカネから1000億円近くの不動産資産を溜め込んでいるのだ。まさに保険料から不当に高い利益を得てきた証左ではないか。

当の基金に疑問をぶつけた。広報課が答えた。

――審査があまりにズサンではないか。

「年間8億件以上のレセプトを一律に見るのは不可能だから、ものによって審査の濃淡はつくことになるが審査委員には全部上程している。委員には医療保険制度を守るという高い使命感でやっていただいている」

――資産を溜め込みすぎている。

「不動産資産は主に支部の建物と土地で、全国に転勤があるから宿舎もある。いずれも必要なもので、遊休不動産ではない。健保組合など保険者との交渉で手数料の単価を下げろと要求されたこともありません」

しかし、長年、基金の審査委員を務めた人物は、この団体は役割を終えたと指摘する。

「基金の発足当時は、健保組合などには診療報酬明細書の審査能力がなかったから、基金がその役割を担ってきた。しかし、今は各健保組合が独自に審査能力を持ち、協会けんぽは各県にレセプト点検センターを置いて自前で検査している。年間約800億円の手数料を払って基金に頼む必要はない。保険者に任せれば審査コストは半分以下に減るはずです」

現在、社会保険診療報酬支払基金と各健保組合などがレセプトのダブルチェックを行なっており、発見された不適切な請求や書類不備などの金額は08年度で約1467億円。それを発見するために手数料として800億円近くが基金の懐に消えている。「15円の不正を発見するのに8円ものコストをかける」という効率の悪さなのだ。

こんな金満天下り団体は廃止して資産を保険料引き下げに使い、不正のチェックは、各健保の自主努力に任せ、電算化したほうが、保険料の無駄はよほど省けるであろう。なによりも、サラリーマンが保険料アップで苦しむ一方、天下り官僚が肥え太るなどということがあってはならないはずだ。

シリーズ最新刊!!
「家康の遺言」に秘められた水戸黄門への密命とは――!?
逆説の日本史 16
江戸名君編
水戸黄門と朱子学の謎
大反響発売中
井沢元彦
定価1,680円（税込）
978-4-09-379686-6
小学館